



発達障がい児・者がより良い社会生活を送るために、早期発見から、就学前、就学中、卒業後のそれぞれのライフステージにおける支援が繋がっていくことがとても大切です。しかし、その支援は長期にわたり、そして多職種・多機関が関わっていくことから、支援する側も将来の見通しが立たなくなってしまうことがあります。

今回は、一人の発達障害児・者がどのように育ち、どのような問題が起こり、どのような支援が行われてきたのかを長期の視点で見たいと思います。

日時: 令和2年11月8日(日) 14:00~16:30
会場: Zoomによるオンライン配信(要事前申し込み)

～乳幼児期から成人期までの歩みと支援について

第1部 事例紹介(14:00~14:15)

不登校であったADHD + ASDの女児が就労するまで

宮 一志氏 富山大学人間発達科学部

第2部 それぞれのライフステージにおける支援 (14:15~15:30)

● 乳幼児期の支援

桐山 由利子氏 富山県リハビリテーション病院 こども作業療法科長

柿本 尚子氏 魚津市立つくし学園 園長

● 学童期の支援

吉田 壮哉氏 チャイルドサポートこぼん 児童指導員

● 思春期の支援

百生 輝美氏 富山県立志貴野高等学校

● 就労の支援

畑 有希隆氏 就労移行支援事業所 ヴィストキャリア富山駅前センター長

第3部 発達障がい児・者の支援をつなげるために (15:40~16:10)

発表者・参加者とのディスカッション

閉会・まとめ 榎戸 芙佐子氏 医療法人社団 和敬会 谷野呉山病院

司会: 山下委希子氏 富山県公認心理師協会

参加対象: 発達障がい児・者の支援者(公的民間は問いませんが守秘義務を負える方) 定員: 100名

参加費: 無料 申し込みは、メールtoyama_hattatsu@aol.comに参加者の氏名・所属・連絡先メールアドレスを記入の上お送り下さい。

参加方法などメールでお知らせいたします。

主催: 富山発達障害研究会 [代表: 森 昭憲(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)]

後援: 富山県、富山県教育委員会